

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 2 月 23 日 (2006.2.23)

【公表番号】特表 2003-514667(P2003-514667A)

【公表日】平成 15 年 4 月 22 日 (2003.4.22)

【出願番号】特願 2001-540216(P2001-540216)

【国際特許分類】

B 0 1 J 29/40 (2006.01)

C 1 0 G 11/05 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 29/40 M

C 1 0 G 11/05

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 27 日 (2005.12.27)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1】 下記工程：

a) オレフィン選択性ゼオライトをオレフィン選択性ゼオライトの総量に基づいて P_2O_5 として計算して少なくとも 10 重量%のリン含有化合物で処理し、次いで乾燥および焼成することにより、リン含有化合物によりオレフィン選択性ゼオライトをエクスシチューで活性化する工程；

b) 活性化されたオレフィン選択性ゼオライトを 10～40 重量%の接触クラッキング成分、バインダー、および 0～25 重量%のシリカとスラリー中で一緒にし、その結果、最終触媒組成物中に存在する無定形アルミナの総量を少なくとも 10 重量%にする工程；および

c) スラリーをスプレー乾燥して触媒粒子を形成する工程；

を含む、触媒組成物の製造法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 5】 エクスシチュー活性化が下記工程：

a) オレフィン選択性ゼオライトを液体の形または溶液の形のリン含有化合物と接触させる工程；

b) 処理されたオレフィン選択性ゼオライトを乾燥させる工程；および

c) 処理され、乾燥されたオレフィン選択性ゼオライトを 300～1000 の温度で焼成する工程；

を含む、請求項 1～4 のいずれか 1 項記載の方法。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 8】 下記成分：

a) 10～40重量%の、結晶性または無定形の接触クラッキング成分、ここで該結晶性接触クラッキング成分はゼオライトYおよび/またはゼオライトXである、

b) 0.1～85重量%の、リンでエクスシチュー処理されたオレフィン選択性ゼオライト、ここでオレフィン選択性ゼオライトは、オレフィン選択性ゼオライトの総量に基づいて P_2O_5 として計算して少なくとも10重量%のリン含有化合物で処理され、乾燥され、そして焼成されており、該オレフィン選択性ゼオライトはMFI型ゼオライト、MEL型ゼオライト、MTW型ゼオライト、MWW型ゼオライトおよび/またはBEA型ゼオライトである、

c) バインダー、

d) 0～25重量%のシリカ、

ここで、最終触媒組成物中の無定形アルミナの総量は少なくとも10重量%である、を含む触媒組成物。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明は、下記工程：

a) オレフィン選択性ゼオライトをオレフィン選択性ゼオライトの総量に基づいて P_2O_5 として計算して少なくとも10重量%のリン含有化合物で処理し、次いで乾燥および焼成することにより、リン含有化合物によりオレフィン選択性ゼオライトをエクスシチューで活性化する工程；

b) 活性化されたオレフィン選択性ゼオライトを10～40重量%の接触クラッキング成分、バインダー、および0～25重量%のシリカとスラリー中で一緒にし、その結果、最終触媒組成物中の無定形アルミナの総量を少なくとも10重量%にする工程；および

c) スラリーをスプレー乾燥して触媒粒子を形成する工程；

を含む触媒組成物の製造法に関する。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

【発明を実施するための形態】

上記したように、エクスシチュー活性化は、オレフィン選択性ゼオライトを液体の形または溶液の形のリン含有化合物と接触させることを含む。適するリン含有化合物、すなわち水素イオンと反応可能な共有またはイオン構造を有するあらゆるリン含有化合物が使用され得る。例えば、リン酸およびその塩、例えばリン酸二水素アンモニウムおよびリン酸水素二アンモニウム、次亜リン酸アンモニウム、オルトリン酸アンモニウム、オルトリン酸二水素アンモニウム、オルトリン酸水素アンモニウム、リン酸三アンモニウム、ホスフィン、およびホスファイトである。適するリン含有化合物は、 PX_3 、 RPX_2 、 R_2PX 、 R_1P 、 $R_3P=O$ 、 RPO_2 、 $RPO(OX)_2$ 、 $PO(OX)_3$ 、 $R_2P(O)OX$ 、 $RP(OX)_2$ 、 $ROP(OX)_2$ 、および $(RO)_2POP(OR)_2$ （ここで、Rはアルキルまたはフェニル基であり、Xは水素、Rまたはハライドである）で表される基の誘導体を包含する。これらの化合物は、第一級、 RPH_2 、第二級、 R_2PH 、および第三級、 R_3P 、ホスフィン、例えばブチルホスフィン；第三級ホスフィンオキサイド、 R_3PO 、例えばトリブチルホスフィン；第一級、 $RP(O)(OX)_2$ および第二級、 $R_2P(O)OX$ 、ホスホン酸、例えばベンゼンホスホン酸；ホスホン酸のエステル、例えばホスホン酸

ジエチル、 $(RO)_2P(O)H$ 、ホスフィン酸ジアルキル、 $(RO)P(O)R_2$ ；亜ホスフィン酸、 R_2POX 、例えばジエチル亜ホスフィン酸、第一級、 $(RO)P(OX)_2$ 、第二級、 $(RO)_2POX$ および第三級、 $(RO)_3P$ 、ホスファイト；およびそのエステル、例えばモノプロピルエステル、アルキルジアルキルホスフィナイト、 $(RO)_2P_2$ 、およびジアルキルホスホナイト、 $(RO)_2PR$ エステルを包含する。ホスファイトエステルの例は、トリメチルホスファイト、トリエチルホスファイト、ジイソプロピルホスファイト、ブチルホスファイト；およびピロホスファイト、例えばテトラピロホスファイトを包含する。上記化合物中のアルキル基は、1～4個の炭素原子を含む。他の適するリン含有化合物は、リンハロゲン化物、例えばリン三塩化物、臭化物およびヨウ化物、アルキルホスホロジクロリダイト、 $(RO)PCl_2$ 、ジアルキルホスホロクロリダイト、 $(RO)_2PCl$ 、アルキルホスホノクロリデート、 $(RO)(R)P(O)Cl$ 、およびジアルキルホスフィノクロリデート、 $R_2P(O)Cl$ を包含する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

オレフィン選択性ゼオライトは、10より上、好ましくは15より上のシリカ/アルミナ比、および12までの環を有するゼオライトとして定義される。好適なオレフィン選択性ゼオライトの例は、MFI型ゼオライト、MEL型ゼオライト、例えばZSM-11、ZSM-12、MTW型ゼオライト、例えばZSM-12、MWW型ゼオライト、例えばMCM-22、MCM-36、MCM-49、MCM-56、およびBEA型ゼオライト、例えばゼオライトベータである。MFI型ゼオライトが好ましい。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

上記方法から得られる触媒組成物は、公知の触媒組成物と比較して改善された特性を有するように見えるので、本発明は、本発明方法によって得られ得る触媒組成物にも関する。このために、本発明は、下記成分：

a) 10～40重量%の、結晶性または無定形の接触クラッキング成分、ここで該結晶性接触クラッキング成分はゼオライトYおよび/またはゼオライトXである、

b) 0.1～85重量%の、リンでエクスシチュー処理されたオレフィン選択性ゼオライト、ここでオレフィン選択性ゼオライトは、オレフィン選択性ゼオライトの総量に基づいて P_2O_5 として計算して少なくとも10重量%のリン含有化合物で処理され、乾燥され、そして焼成されており、該オレフィン選択性ゼオライトはMFI型ゼオライト、MEL型ゼオライト、MTW型ゼオライト、MWW型ゼオライトおよび/またはBEA型ゼオライトである、

c) バインダー、

d) 0～25重量%のシリカ、

ここで、最終触媒組成物中の無定形アルミナの総量は少なくとも10重量%である、を含む触媒組成物に関する。